

LET 関西 2017 年度春季研究大会・2017 年度関西英語教育学会 (KELES) 第 22 回研究大会 (共催) プログラム概要 (KELES 企画分)

10 日 10:00~11:40 企画ワークショップ
第 3 室【309 教室】

「『アクティブ・ラーニング』から『主体的・対話的で深い学び』へー本当に大切なことは何かを考えるー」

講師 中井 弘一 (京都橘大学)

「アクティブ・ラーニング」という言葉が教育界を席卷し、書店の本棚も「アクティブ・ラーニング」教の教えを広めるかのような賑わいの中、教育の frontline に立つ教員は先行する言葉に戸惑いながら、子どもたちが討論やグループ活動などを通じて能動的に学ぶ取り組みを「アクティブ・ラーニング」と単に学習形態として捉えてきた感がある。

文科省は、2 月に発表した次の指導要領の改訂案(3 月末に確定版発表)で「アクティブ・ラーニングは多義的な言葉で概念が確立していない」としてその用語を使わず、「主体的・対話的で深い学び」という表現に統一した。英オックスフォード大出版局は、昨年注目を集めた英単語として「客観的な事実や真実が重視されない時代」を意味する形容詞 “Post Truth (脱真実)” を選んだが、「アクティブ・ラーニング」騒動もそうした時代を反映しているのではないだろうか。

「主体的・対話的で深い学び」は今新たに言われなくても、これまでから必要と認識されていることである。学校現場の先生も十分そのことは承知している。ただ、何をすることが必要なのかに気が囚われ、何のために必要なのか、なぜ大切なのかを十分理解し得ていないかもしれない。本ワークショップではそうしたことを踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」には何が大切で、なぜ大切なのかを参加者と共に考えたいと思う。



LET 関西 2017 年度春季研究大会・2017 年度関西英語教育学会
(KELES) 第 22 回研究大会（共催）
プログラム概要（KELES 企画分）

11 日 11:00～12:20 ブランチセッション
第 1 室【301 教室】

「質的研究入門—実践研究に役立てるために—」

講師 高木 亜希子（青山学院大学）

様々な要因が複雑に絡む教育実践の中で、教師が抱える問題について深く理解したり、実践上の課題を解決する糸口を模索したりする手段として、教師による実践研究は重要です。

本ワークショップでは、教師による実践研究において、質的研究（質的データ）を用いる際の考え方や方法について概観します。具体的には、私が関わっている中部地区英語教育学会のプロジェクト「英語教育の質的向上を目指した実践研究法のデザイン」における実践者の研究事例を取り上げ、問いの立て方、データ収集の方法、データ分析と考察のあり方について理解を深めます。



LET 関西 2017 年度春季研究大会・2017 年度関西英語教育学会
(KELES) 第 22 回研究大会 (共催)
プログラム概要 (KELES 企画分)

11 日 11:00~12:20 ブランチセッション
第 2 室【303 教室】

「生徒が自ら学びを選択する場づくり～多種多様なプロジェクトで意欲・個性・絆が育つと、進捗・種類が豊富なメニューで自律的に学び出す～」

講師 江藤 由布 (近畿大学附属高等学校
・一般社団法人オーガニックラーニング代表理事)

発表とワークショップを組み合わせ、未来の先生の姿、Edupreneur の目的は何かを掘り下げて考え、自分のアクションプランを見つけます。

わたしは、高校の専任教諭をしながら、一般社団法人オーガニックラーニングの代表理事として「人生の経営者」を育てる Edupreneur です。人生の経営者とは自分で手綱を握り、内側の意志によって選択して生きる人を指します。

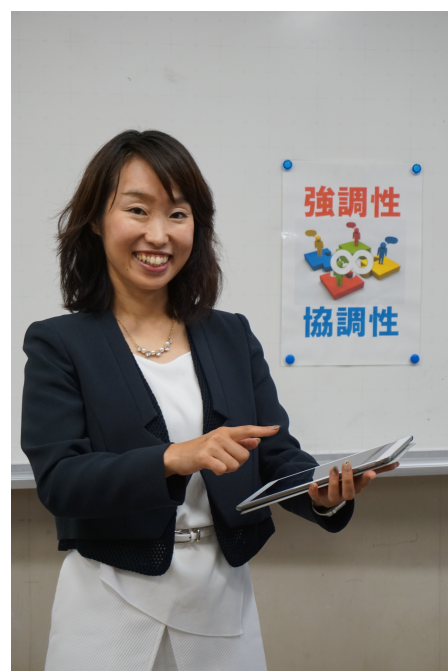
ワークショップのタイトル「生徒が自ら学びを選択する場づくり」に二つの含みがあることにお気づきいただいたでしょうか？

⇒学びたいと思える場

⇒アラカルト式に学ぶ方法を選択する場

オーガニックラーニングでは、生徒の学びの根っこを育てるプロジェクト学習を多く取り入れます。また、現在は入試前ということで、自らの意志によって選択しながら取り組むことのできるアダプティブラーニングにシフトしています。

当日は現高校三年生の三年間の学びについての事例紹介と、目的を見つける「コンポンセッション」を通し、みなさんお一人お一人のミッションやアクションプランを持ち帰っていただく予定です。



LET 関西 2017 年度春季研究大会・2017 年度関西英語教育学会
(KELES) 第 22 回研究大会 (共催)
プログラム概要 (KELES 企画分)

11 日 15:25~16:45 講演

【301 教室】

「やる気は伝染する！？ ペアやグループの動機づけから考える英語指導」

講師 廣森 友人 (明治大学)

英語学習において、「やる気」(動機づけ)が重要なことに異論をはさむ余地はない。やる気はともすれば個人が有する特性や状態と捉えられがちだが、実際には我々のやる気は周りから(良くも悪くも)大きな影響を受けている(そうでなければ、私たちはわざわざスタジアムに行き、サッカー日本代表の応援をすることもないだろうし、わざわざ映画館に出かけて行って、それなりのお金を払って映画を観ることもしないだろう)。では、「やる気が伝染する」とは具体的にどういうことか、あるいはどのようなプロセスを経てやる気は伝染するのだろうか。



本講演では、ペアやグループ内のメンバーによって相互に作り出される (co-construct) やる気を心理的、環境的側面から理解することを通じて、日頃の英語指導に関する実践的な示唆を得ることを目指したい。